## ３つの森林活動

みなさまの参加を
お待ちしております

**小原本陣の森**

**第１・３日曜日**

**知足の森**

**第１・３日曜日**

**相模湖・嵐山の森**

**不定期活動**

# News Letter

# NPO法人緑のダム北相模
# midorinodam.jp

**No.521-522**
新型ウインチで、間伐材を大量に搬出しました

## 【定例活動報告】
## 相模湖・嵐山の森

**第３日曜日の活動より**

　昨日の雨も上がり曇り空であるが、森林活動として適した日和であった。緑のダムの卒業生で現在静岡の森林組合に勤務している二藤君が間伐材の搬出を楽にするために軽量小型エンジンウインチを持参して運転を披露してくれた。
　中高生が20名位参加したので、搬出先上部で丸太をワイヤーで縛りいつでも引けるように準備をするグループ。エンジンウインチを作動させるグループ。

緑のダム北相模は相模原市内で活動する森林ボランティアです。急がず、無理せず、楽しく、休まず、 ボチボチと・・。

ウインチの終着点で丸太をワイヤーから外し軽トラックの荷台に積み込むグループ（ここに女子学生がたむろしていたが結構重い仕事）。

大変だったのは、エンジンウインチの始動地点まで丸太をトングで運んでくる男子学生の皆さんでした。結局午前中に軽トラ三杯分の丸太材を所定の場所まで移動できた。

終わって感想をまとめてみると、運搬距離や地盤の突起が少なく運搬距離が短く整っている状態で機能を発揮できる機械であるとの意見であった。

様々な環境に適合できる様にヘッドキャップを付けるなどの貴重な意見があった。丸太を運搬中にワイヤーが外れウインチ側に飛んでくる危険な場もありリスクがあることが分かった。

本日は、林業機械のお披露目と勉強に終始した。目の前にいる中高生の皆さんが2～30年後の林業は林業ロボットの装着やドローンを使った作業が当たり前になっているのだろう我々高齢者は林業の重要性を、子孫に日本の豊かな自然がいつまでも存続する様せっせと伝える使命があるのです。

小林　照夫（本会、理事）

# 【定例活動報告】知足の森

今月の第１日曜日の活動は台風のため、相模原市に警報が発令され中止となりました。今月は先月行われた体験学校にスタッフとして参加した中学生のコメントを紹介します。

今回は小学生の沢体験を運営する側になり、今までにはない経験をすることができました。とは言っても、自分に精一杯になってしまったり、楽しんでいるうちに小学生から目を離してしまったりして僕は至らないところがありましたが、小学生も楽しんでくれていてこちらも嬉しかったです。小学生は特に流れが速く深い場所がやはり好きなようで、みんな笑顔を見せてくれたので僕も幸せでした。しかし、小学生が転びそうな時も何度もあったので、やはり沢では十分な注意が必要だと思いました。

これからは相手を喜ばせるエンターテインメントもより深く考えていきたいです。今回するはずであった水質調査もまた機会がある時にと是非してみたいです。次回の活動の時はチームワークを大切にしたいです。

石原　颯太（GREEN TECH ENGINEER LAB　中学１年）

今回は、竹を切り、切った竹を使い、竹ドームを小学生と一緒にスタッフとして参加した。

竹を切っているときに小学生が積極的にのこぎりを出して竹を切っていて楽しそうにしていてよかったと思った。また、竹の切り方などを教えているのを見て、自分も人に教えられるくらいうまくなりたいと思った。

自分たちで切った竹を使い、竹ドームを作った。細い竹と太い竹のバランスが悪かったため、一回目はうまくたたなかった。だから、弱い竹に強い竹を補強したり、竹と竹をつなぎとめるための結び目を強くしたりした。また、先輩たちが話し合い、その内容について積極的に行い、みんなで協力することの大切さを学んだ。そして、自分で今やるべきことを考え行動することも大切だなと思った。全員で完成を見ることはできなかったが、自分たちで竹を切るところから作った竹ドームの中でみたビデオは普段ふつうにみるビデオと一味違った。

大重　文乃（GREEN TECH ENGINEER LAB　中学１年）

# 桜井尚武の森のコラム

## 「シャリンバイ（*Rhaphiolepis umbellata*）」

図1 シャリンバイ

20200116汐入公園

バラ科の常緑低木、樹高は4m以上になります。全縁か少し鋸歯のある卵形または広楕円形で革質の厚くて硬い葉が枝先に輪生するように集まって互生します（図1）。5～6月に多数の白色の5弁花の円錐花序を作ります。1㎝程の球形の果実は晩秋に黒熟しますがこの時期でも花がしばしば見られます（図2）。関東地方以西から九州までの暖地の海岸沿いから丘陵地帯に自生します。樹皮や材にタンニンを含みます。剪定や移植が容易なので庭園樹や道路沿いの植え込みに多用されています。また海岸に多い植生の特長として潮風や飛砂に耐えるので防砂林、防潮林の最前面によく植栽されています。湘南海岸の例では高い防風防砂フェンスの奥に植えられたクロマツを守って健気に生育しています（図3）。

図2 花と果実

20181028汐入公園

図3 湘南海岸防潮林

20080509藤沢

この植物で思い出すのは銀座の並木がヤナギからこの種に替えられたことです。1960年代後半に光化学スモッグで都内の小中学校の生徒が朝礼の最中に倒れるという事件が続発しました。大気汚染公害の顕在化です。「昔恋しい銀座の柳・・・」と親しまれたシダレヤナギは大気汚染に弱いのでシャリンバイに替えられたということが新聞記事になりました。この並木は最近までイチイになっていましたが、今はオリンピックパラリンピックまでにカツラに替える作業が始まっているそうです。

鹿児島県の奄美大島名産に大島紬があります。着物や帯に珍重される反物ですがこれを染め上げるのにシャリンバイが欠かせません。現地でテーチギと呼ばれるこの樹種の幹（図4）を皮ごと砕いて煮出した液とこれも奄美の自然泥に含まれる鉄分や塩類の媒染（泥染）で大島紬特有の手触りや光沢をもった色柄が出来るのだそうです。南西諸島の産業振興補助事業の一環として奄美大島のシャリンバイ造林事業の手伝いのため現地を訪れたことがありました。

図4 シャリンバイの幹

20201003吾妻小学校つくば

桜井　尚武（本会、会員）

# 【若者の森づくり】地球環境部

**ソーシャルディスタンス小菅村合宿を行いました**

今回の合宿では、コロナウイルス感染予防対策を十分行なった準備で臨みました。源流体験、わさび農家の手伝いについては感染リスクは野外であることからも低いことは予想されました。しかし、問題はやはり食事です。しかし、やはりバーベキューはしたい。そこで、一人一台のかまどを準備し、自分の日を自分で維持し、自分専用の食材を焼いて、食べる。この方式で安全に実施することができました。活動自体の報告は参加した大学生２名が報告します。

今回の小菅村合宿で行ったわさび田での作業は、今まで行ってきた体験に比べ、より能動性の増した、地域とのつながりを意識できるものになったと感じています。今までの体験は、木の伐採をメインとしていました。しかし、9年続けていく中で事情も変わり、新規参加者は減り、合宿に参加するメンバーが固定化されていきました。さらに、ここ数年の合宿の参 加者は定例活動にも参加している人員がほとんどであり、毎年合宿を行って伐採を行う意義が薄れてきていたように感じていました。今回新たに行ったわさび田での作業は、今まで行ったことのない、定例活動ではできない作業の新鮮さが合宿参加者にも好評でした。また、今までの経験は、自分たちが「体験させてもらう」という立場であったのに対して、わさび田の作業は、地元のわさび農家の作業の手伝いの一環として行われるものでもあるので、小菅村との関係をより深められ、今後の活動の幅を広げる可能性を感じられました。

牧野　佑紀（早稲田大学法学部）

2日目は今回のメインでもあるワサビ田の再生に取り組んだ。夏の晴れた日であったが、川の側ということもあり涼しく、作業は捗った。最初は雑草や蔦で覆われており、周りの森と区別がつかない程であった。しかし雑草を除いていくと山葵が多く存在し、雑草に負けない山葵の生命力の強さを感じた。作業が進むと石積みの立派な山葵田が姿を現した。普段の活動から下草刈りも慣れたもので、短時間で効率よく作業ができ、2つの現場での作業を終えた。今回の小菅村合宿は1泊2日と短いものであったが、レクリエーション・作業ともに充実したものであった。また1泊2日で小菅村での作業ができるのであれば、今までのような日曜日の相模湖周辺での作業だけでなく、週末2日を使った小菅村や他の少し離れた場所での定期的な作業が可能になるのではないかと考える。費用などの問題もあるが、行動範囲が広まれば今回の山葵田のように、普段できないような活動もでき面白いのではないかと感じた。

永井　伶（明治大学農学部）

# 【若者の森づくり】ForesTo Class

**嵐山からの材搬出**
**～ウインチを使った作業～**

今月は先月と打って変わり、嵐山での残った木材の搬出活動となりました。緑のダムとして新たにウインチを導入し、ForesTo Classの二藤さん主導のもと作業にあたりました。

ウインチとは普段目聞きするものではないので、調べると以下のような説明になります。

回転する動力を原動機によって発生させ、ドラムにロープを巻き取っていくことで、ロープなどに張力を与える機器の総称だそうです。

この力を利用して高いところから重たい荷物を持ち上げたり、引っ張ったりして運んでいきます。別名「巻き上げ機」とも呼ばれ、主に重量物の移動や保持に用いられます。われわれ森林ボランティア活動では、マンパワーに頼るところが大きいですが、こういった機械の動力を借りることで効率良く作業を行うことも大切です。

しかし、機械は使い方を間違えると常に事故と隣り合わせになります。今回は作業にあたる人が多く、皆おもいおもいに動いていたために木材からロープが離脱した際に機械を止めることができませんでした。

先に述べたとおり、ロープに張力をもたらす機械なので相当な力が加わっています。これが外れたらという危険予知と、作業前の配置や役割分担が足りなかったと反省しました。ただ、安全に使えばとても有効な道具になりますので今後の活用にも期待したいです。

最後に私が10月から再度北海道へ転勤となります。東京へ戻ってきて2年間相模湖の皆様に大変お世話になりました。大学生の時からお世話になった嵐山が少しでも片付くように、今回は感謝の気持ちで活動へ臨みました。今後はなかなか現場にいけませんがForesTo Classの活動を継続していきたいと思います。

滝澤　康至（ForesTo Class）

造園業を営んでおります安藤彰矩と申します。活動に参加したキッカケは、同じ大学出身の友人である滝澤と二藤からのお誘いで、"非営利"な活動と、二人の想いや熱意に感銘を受け、これからも参加し続けたいと感じた事です。

日頃の仕事とは違う人間関係や"やりがい"を無意識に求めている自分がいました。この活動に参加していくことで、自分の成長の一欠片に出来ればと思っております。"造園"という分野からこの活動へとアプローチが出来れば嬉しいと私個人として楽しみにしています。

今回は、材の搬出にロープウィンチを使っての試験的な運用を見せてもらいました。人数も多いため、一つ一つ時間を取って安全に且つ、効率の良い"新しい段取り"を拝見することができてとても勉強になりました。

1.5トン級の牽引が可能なためより多く大きな材の搬出に期待できそうです。他の方が述べられている通り、より危険な要素もいくつか増えています。チェーンソー同様、エンジン音が継続的に鳴り響いているため現場にいるほぼ全員の会話が出来なくなります。朝の打ち合わせ、子供たちへの安全対策、日頃のコミュニケーションやボディランゲージが必要だと体感しました。

二藤さんに頼りっぱなしであまりお役に立てなかったですが、緻密な計算や安全作業がより大きな効果が出す、いわば"頭を使う"仕事であると痛感しました。教えてもらった機械の取り扱いを忘れず次回へと活かせるように復習しておきたいと思います。

安藤　彰矩（作庭処安藤　代表）

# 【若者の森づくり】GREEN TECH ENGINEER LAB

本会と協働する東京学芸大EXPLAYGROUND推進機構のラボの一つであるGREEN TECH ENGINEER LABと間伐材の活用を進めています。現在の中学生の主体が学芸大の附属中学校の生徒ということもあり、同じキャンパスにある施設で間伐材の利用を進めています。ラボのメンバーが25名程度おり、間伐材の利用をいくつかのチームに分けています。身近であったり、学校生活などでの問題解決を木を使って何ができるか、が共通のテーマです。その結果、昇降口のすのこの交換、教室表示板の交換、教室の棚カバー作成、授業で使うiPadのスタンド、イベントで使う校名のウェルカムボード、近隣の保育園などに木のおもちゃを寄付する、などです。順次、成果物が出来たものからご紹介します。すのこについてはすでに試作１号機がすでに完成しています（次ページ写真左上）。木材は大学の環境教育センターで保管させてもらい（次ページ写真右中）、木工作業

も学内のCLTの木造建築で行なっています。この中にあるレーザー加工機（写真右上右下）や3Dプリンタなどのデジタルファブリケーションも利用させてもらっていて、通常の木製品とは一線を画するものができる予定です。ここではVIVISTOP GAKUGEIのスタッフにご指導いただいたり、木工を専門にされている大谷先生の研究室（写真左下）で板を縦引きさせてもらったりと活動が多様化しています。コロナウイルスの状況にもよりますが、構内への出入りができるようになりましたら、作業の様子などを見学にいらしていただければと思います。

宮村　連理（本会、副理事長）

## NPO法人
## 緑のダム北相模

名称：特定非営利活動法人　緑のダム北相模
現地事務局：〒252-0172　相模原市緑区与瀬本町12　かどや食堂内
支援団体：セブン-イレブン記念財団
積水ハウスマッチングプログラム、国土緑化推進機構
コンサベーション・アライアンス・ジャパン
協働団体：神奈川県、相模原市、麻布大学、マルモ出版、
東京学芸大学環境教育研究センター、
（社）東京学芸大EXPLAYGROUND推進機構、
（社）さがみ湖 森・モノづくり研究所、ウッドバンク㈱

### 参加にあたって：

初参加者は、9時15分までにJR相模湖駅前に集合です。服装、持ち物については、汚れても良い服装、着替え、滑らない靴　成るべく皮製手袋、万一の怪我に備えて保険証、飲料水、主食、昼食

### 危機管理・救急対応：

危険管理・救急体制・森林ボランテイア保険の準備の他、会として可能な限りの体制を敷いていますが「怪我・事故は、自己責任」です。

緑の募金　一般財団法人 セブン-イレブン 記念財団　SEKISUI HOUSE MATCHING PROGRAM　CAJ Conservation Alliance Japan 一般社団法人 コンサベーション・アライアンス・ジャパン